

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホーム スローシテイ ピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1-854-1		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590300051&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590300051&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年1月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「スローシテイピアノ」では、ゆつくりを基本としている。ゆつくりが許されれば出来る事は、まだまだたくさんあります。個人の持つ能力を最大限に引き出す時間を惜しまない。今年も大変喜ばれたパン教室を続けていきたい。ピアノ便りも、県外にお住まいの家族からは特に喜ばれているため、続けて発行したい。認知症の勉強も、能力にあった研修を職員一人ひとりに受けてもらい、スキルアップに繋げている。若い介護スタッフが多く、また、人間関係も良好で、明るく元気な職場環境である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅地の一角に位置し、近くには小学校、幼稚園があり、地域とのつながりも当たり前に行き来している。運営者が医師であるため、24時間の医療体制が整っていることが利用者、家族、職員の安心にもつながり、利用者主体の支援が構築されている。管理者は、働きやすい環境がより良いサービス提供につながるの思いから、職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員からの人望が厚い。利用者一人ひとりのペースを尊重した、理念に沿った支援が、ケアのあらゆる場面で実践されている。正月に、帰宅困難な利用者の家族がホームに宿泊して一緒に過ごすなど、個々の思いに寄り添った支援をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一回の定例会を通じ、利用者が地域の中でその方らしく暮らせるよう、職員一同理念の共有を心掛けている。	設立当初から、利用者主体の運営を目指した理念が作られ、管理者、職員は日々のケアの指針としている。利用者が納得するまで寄り添い、傾聴することで、不穏の解消につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、季節ごとの花を施設周りの花壇に植えてくださっている。現在、利用者数名しか参加されていない為、参加人数を増やす計画をたてる。		自治会に加入しており、地域からの情報も入ってきている。ホームの夏祭りに招待したり、庭の花の植栽に来てもらうなど、交流は徐々に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同市内の福祉大生からの研修性を受け入れ、指導を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、第2木曜日午後2:00と決め、開催している。地域の防災活動に参加したり、開催時に利用者の状況を伝え、質問等を受けている。	開催日時を決めていることで、ほとんどのメンバーが参加しての会議となっている。利用者の現状報告や、活動報告をもとに、質疑応答を行い活発な意見が出されている。	事業所の困り事や、改善課題などの問題提議の場と捉えることで、多彩なメンバーからの意見をサービス向上につなげていく会議となることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者より、提出物の適切な書き方や支援面での理解しがたい事を電話や直接出向いて行き、指導を受けている。	担当者には、運営推進会議の時に実情を報告したり、要望や意見の交換も行っている。問題事項があった時は、一緒に解決に向けて取り組む関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員全員で取り組んでいる。	身体拘束の弊害は全職員が理解している。鍵を掛けないケアについても研修を行っているが、開設当初に危険行為があったことから、日常、玄関は施錠している。	現在の利用者の動作を観察し、状態を把握することで、安全を踏まえ、鍵を掛けない取り組みを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	室長を中心に、チームケアを学習し、職員の意識向上を目指す。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では学ぶ機会を持っていない。今後、個々の必要性を感じるため学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、納得のいくまで説明したあと締結をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へは、運営推進委員会を通し意見を頂く機会を設けている。家族からの要望は随時対応している。	ホームでの生活情報をもっとほしいとの要望があり、毎月のホーム便りでは、利用者個人の日常写真や状況報告をそれぞれの家族に届けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、意見は職員から室長へ上げてもらい、管理者へ意見が伝わるようになっている。又、毎月定例会を開き、意見交換をする事で、運営に反映している。	上下の人間関係が良好で、職員は意見の表出はいつでもできている。重要課題があれば、運営者が率先して勉強会を開催し、解決に向けての取組を話し合い、サービスの向上に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、全員正規雇用。職員が全員向上心を持って働ける環境整備に努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に能力に応じた研修へ参加できるよう、計画を立てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、勉強会はしたいと考えているが、来ていない。今後、同市内の施設と交流を図り、サービスの質の向上をさせていく取り組みを行いたい。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等の訴えがあると、本人が納得し安心できるよう話をゆっくりと聞いている。交流をできる限りもち、利用者が気持ちを出しやすくなるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、悩みを共有できるように支援している。面会時、随時要望があれば、相談を受けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての事を職員がするのではなく、何事も利用者とともに行うよう心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係の理解に努めている。また、職員と家族が日頃から交流をする事によって、より本人と家族の絆が深まるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院に出かけたり、ホームに出張してもらえるよう働きかけている。又、関連施設に友人がいる場合、職員間で連携をとり、交流が途切れないよう支援している。	墓参りや外出などは、家族の協力もあり、本人の希望に沿うように支援している。また、ホームでの行事がある時には、友人や知人の来訪があり、感激される場面もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるようになる支援に努めている	レクリエーション活動を充実させ、利用者同士が楽しく自然に交流できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援していくよう努める。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いに関心を持ち、把握が困難であった場合は職員全員で話し合い、本人を理解するよう努める。		利用者同士の会話が多く、職員には表さない愚痴や本音も耳にすることがある。職員は聞き流しながらも、しっかりと思いをくみ取り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時、本人の生活歴や暮らしの様子を伺い、これまでの暮らしができるように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、朝礼、介護記録、バイタルチェックによる健康管理を行い、現状把握に努める。勤務交代時、申し送り記録で職員間の情報の交換を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見の出しやすいBS法にて、本人、家族の求める介護について意見を出し合う。その意見を基に介護計画を作成し、支援を行う。		日々の気づきを担当職員を中心に、家族や関係者と話し合い、本人本位の計画を作成している。毎月モニタリングをしており、短期目標を取り組みやすい事項に設定するための見直しを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて1日の様子を記録し、センター方式(生活のリズム)で1週間の記録をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学生ボランティアの協力により、祭りの実施や機能訓練などを行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、馴染みの関係、継続的な医療を受けられるよう支援している。24時間体制で連絡が取れるように、連絡網を作成している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の健康管理を行い、状態の変化を協力医へ連絡、相談している。緊急時の場合は、協力医の看護師へ24時間体制で連絡できる体制をとっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡をとり、情報交換や相談に努めている。いつ退院しても良いように、柔軟に環境整備ができるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での「できること・出来ないこと」を見極め、医療・介護がチームとして支援できるよう、今後検討、準備を進めたい。		入居時にホームの指針を説明し、同意を得ている。現在、利用者の健康状態が良好で、話し合いの機会が少ないが、方針の共有は行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えての訓練は行っているが、実践力を身につけるための訓練を今後、定期的に行っていく。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が避難できる訓練を定期的に行っている。課題として地域の方々の協力を得て、一緒に訓練を実施していきたい。			
					地域住民にも参加を呼び掛け、協力体制を確立するとともに、職員の災害に対する意識向上のためにも、ホーム独自でできる定期的な訓練の実施の検討を望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族から利用者の性格を教えていただいたり、日々の生活の中で感じ取り、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応ができるよう努めている。	職員は、丁寧で優しい言葉かけを常に心掛け、個々の生活歴を尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、職員が早期に気づき、本人の思いや希望を肯定し、自己決定できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が基本理念の「ゆっくり」を念頭にいれ、利用者のペースにあわせ、その時の希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、利用者自身が選びその人らしいおしゃれ、身だしなみができるように支援している。困難な方は一緒に選び、自己決定できるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の利用者の意欲や体調に応じて声掛けし、職員と行っている。	野菜や魚は、毎日新鮮な物が地域の店から届けられ、それによって、利用者の好みを取り入れた献立を立てている。利用者職員は、共に食卓を囲み食事をしている。下ごしらえや後片づけも、できる利用者が進んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食後記録しており、食欲低下、水分摂取が困難な方には、代替品やとろみ剤、ゼリー等を使用するなどし、一人ひとりに応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛けをし、できるところは利用者にしていただき、できない部分は職員が介助している。応じていただけない方もいたが、毎日の声掛けで少しずつ習慣になってきている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録のデータや一人ひとりのトイレに行きたいという行動から、排泄のパターンを理解し、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように支援している。	排泄記録により排便のパターンや習慣を把握できるように努めている。また、適度な運動や水分補給等にも配慮し、便秘の予防をしている。便秘の方に関しては、医師の指示の下、便秘薬の服用を行うこともある。	日中は、ほとんどの利用者がトイレでの排せつを行っている。職員は、扉の外で見守ったり、下衣の上げ下げを介助したり、それぞれに応じた排せつ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、利用者の希望を踏まえ、タイミングや状況をみながら気持ちよく入浴できるようにしている。		毎日、午後からの入浴を基本としているが、時間は利用者の希望を優先している。利用者によっては、安全面から職員2人で対応する時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し照明や居室の温度などの環境整備に配慮している。寝付けない方とは、ゆっくりと話を聞くなどして、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容はファイルで確認できるようにしている。医療連携により、薬の変更や留意事項は全職員が把握できるよう申し送りノートに記載、周知徹底を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯干し、たたみ、食器洗いなど個々の役割として支援している。又、毎月の活動予定表を作成しており、回想療法、運動療法などを行う中で、楽しみを持っていただけるような機会を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や精神状態、天候を考慮し、散歩やドライブ、外気浴などを行っている。又、家族の協力を得ながら、外食や旅行に行かれる方もいる。散歩や買い物、ドライブなど、できるだけ外出の機会を設けている。		暖かい日には、ホーム近辺への散歩が日課となっている。季節ごとに市内の植物園や、あゆやなへ食事に行ったり、受診のついでに家族と外食やショッピングをするなど、外出支援は積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ソナタ		実践状況	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望で買い物に出かけ、本人に品物を選んでいただき、その方の力に応じて払える方には自分で払っていただく。困難な方には、職員が付き添い支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人とやり取りができるよう、電話をかけたいたいの要望があった場合、その都度対応している。手紙を送る際も切手の購入なども支援し、困難な方もやり取りができるよう、職員が定期的に手紙や電話で近況を報告している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓がある為、自然の光が入り、そこから山が見え、季節感を感じることができる。ホールにはソファが置いてあり、それぞれが気に入った場所で過ごせるように工夫している。		居間には、やなぎ餅やおひな様のタペストリーなど、季節を感じる飾りつけがしており、利用者への話題提供の一つとなっている。直射日光を遮るための工夫や玄関での靴着脱のためのいすの設置など、心地よさを配慮した共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが置いてあり、その他にもベンチや椅子等がテラスにも置いてある。その時の気分によって利用者が選べるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、家族の写真やぬいぐるみなど、利用者が生活の一部として使用していたものを本人と家族に相談して居室に置いていただき、安心してその方らしく暮らせるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手摺り設置、バリアフリーとなっている。又、トイレの表記にも工夫を凝らし、分かりやすくしている。			